

日本環境計測株式会社 土壤酸素センサーMIJ-03 (P.A.T. 3025495)取扱説明書

本製品の取扱いは非常に簡単ですが、注意事項だけはお守りください。

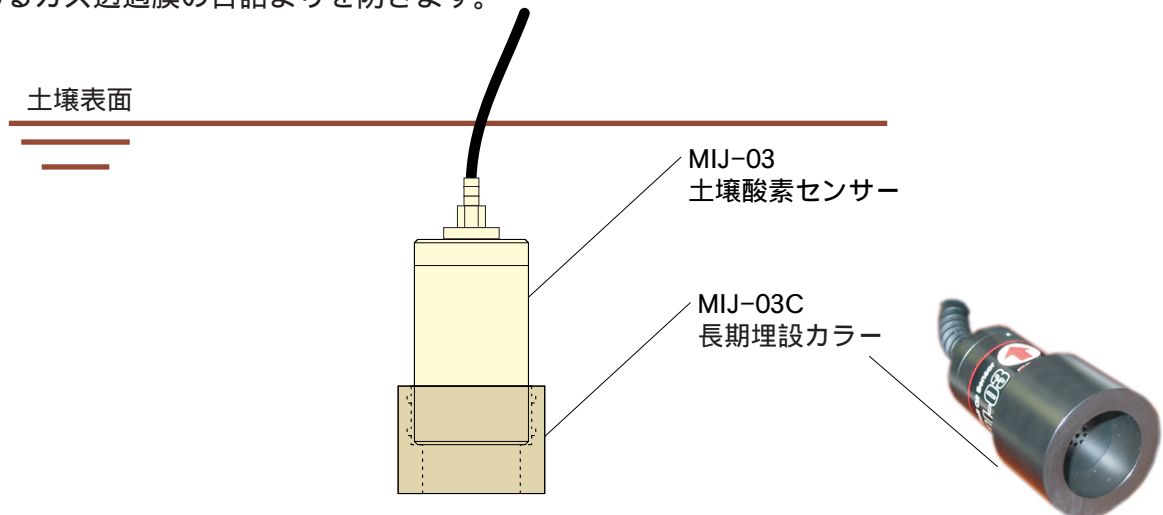
1. 設置手順

- 1.1. 大気中に約10分放置した後、ロガーやテスターなどで出力を確認します。+が白、-が黒です。この時の出力がスパン値で、通常約50~70mVになっています。メモしておきましょう。計測データはこのスパン値を基準に算出します。本センサーの出力はリニアで、かつ周辺に酸素が無い場合には出力値はゼロです。つまりスパン校正だけ実施すれば換算式を作ることができます。例えば大気に放置した際に52.3mVの出力が得られる場合、大気は20.9%O₂濃度で一定ですから、換算式は次のようになります。校正時には大気圧が1013hpaから大きく外れない大気圧時に実施してください。

$$O_2(\%) = 20.9(\%) \times \frac{V(mV)}{52.3(mV)}$$

V: センサー出力

- 1.2. センサーを好きな深さに埋めてください。この時必ずケーブル取り付け面が鉛直上向きになるように（センサー底部の穴が下向きに）設置してください。
- 1.3. センサー端の白黒線をロガーなどに接続してください。シールド線は無視してください。
- 1.4. 懸濁水や水に常時接触する環境の場合、もしくは1ヶ月以上の長期連続埋設を行う場合には、付属の「MIJ-03C長期埋設カラー」を装着してください。懸濁水や水に含まれる微細な粒子が原因での酸素検出穴奥にあるガス透過膜の目詰まりを防ぎます。



2. 注意事項

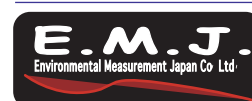
センサー下部の酸素検出穴の奥にはガス透過膜を設置していますので、むやみに針など刺したりしないでください。設置中に浸水します。

長期保管時及び長期使用時はセンサー下部を下側にしてください。

3. 土壤酸素センサーの原理

MIJ-03土壤酸素センサーは下図に示すように、金電極を正極に、Pb電極を負極に持つ酸素/鉛電池で構成されています。外部と内部はOuter Tefrin Sheetで隔離されており、かつInner Tefron Sheetで内部溶液を保持しています。両テフロンシートを拡散によって通過する酸素分子の濃度に応じてAu Electrodeで電解還元反応が生じます。その際回路内に発生する微弱な電流をResisterで電圧に変換し、それがセンサー出力となります。反応に影響を与える要因は、1.温度の変動、2.圧力の変動、になりますが、1に対して、本センサーでは筐体を2重構造にして、かつ空隙を設けており、温度補正用のサーミスタを内蔵して対策しています。2に対しては溶液内部に圧力補正用の気泡を設置する事で対策しています。

Environmental Measurement Japan



日本環境計測株式会社
〒811-0215
福岡県福岡市東区高美台二丁目52番42号
電話: 092-608-6412
FAX: 092-985-7844
www.environment.co.jp

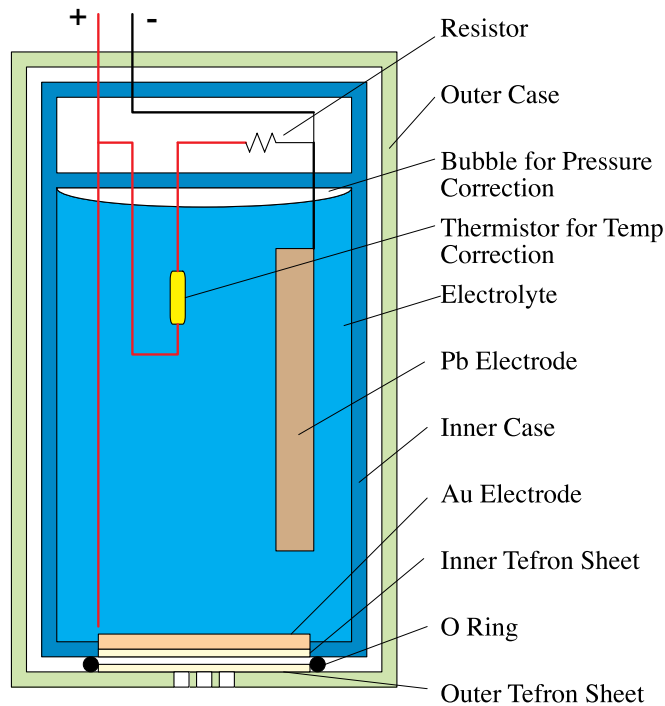


図. MIJ-03土壤酸素センサー概略図

4. 土壤酸素センサーの精度

土壤中の酸素濃度のフルスケールは0～20.9%です。つまり外気中の酸素濃度を超えることはありません。従って、本センサーのフルスケールも0～20.9%として扱えます。このスケールでの測定精度は±0.5%となります。代表的な範囲での特性を下の表に記載します。

特性項目	代表的特性
フルスケール	0～20.9 %
応答速度(90%)	240 ± 30 秒
大気中20.9%での出力	45～68 mV
使用温度範囲	0～40
保存温度	-20～60
寿命	1,500,000 %h
測定精度	±0.5%

5. 土壤酸素センサーの特性

大気中における出力について

電極と溶液の接触面積、もしくは溶液の状態などは製造時に若干の誤差が生じてしまう為、複数のセンサーを通して見た場合には、出力の「ばらつき」が生じます。ただし、このばらつきは、一個のセンサーを見た場合、時間や設置環境に応じて乱れる類のものではない為、設置前にそれぞれのスパンキャリブレーションを行っていただければデータの取り扱い上、十分な調整が可能です。

設置と保管

溶液内部には圧力補正を目的として、気泡を設置しています。この気泡がAu電極に接触した状態、つまり、検出部を上にした状態では、反応が阻害されることになり、測定不能に陥る事がございます。この現象が見られた場合には、検出部を下向きにして、大気中に数時間放置していただくと復元します。保管時にも同様の注意が必要です。検出部を下向き、もしくは水平にして保管してください。

廃棄について

内部溶液は弱酸性ですから、漏洩が発生して放置しても発火の危険はございませんが、誤って飲んでしまったり、目に入ったりすると危険です。万が一内部溶液が漏れた場合にはポリ袋などに入れてください。また寿命が尽きた場合には弊社まで返送していただければ、こちらで廃棄致します。そうでない場合には鉛蓄バッテリーの廃棄専門業者等に委託してください。

Environmental Measurement Japan



日本環境計測株式会社
〒811-0215
福岡県福岡市東区高美台二丁目52番42号
電話：092-608-6412
FAX：092-985-7844
www.environment.co.jp